MEDICINOVA VOICE

株主通信 Vol.17
決算のご報告
（2014年1月1日～2014年12月31日）

Patients voice, Our choice.

笑顔のために…

みんなの笑顔をつくることができると、私共は信じています。

01 TOP MESSAGE
進行型多発性硬化症およびALSの患者登録が予定過半数超え

02 TOPICs
当社株式の基準値段の取扱いが変更されました

02 SPECIAL EDITION
特集「着実に前進するメディシノバ」
～助成金、特許取得、学会発表について～

07 HIGHLIGHTS
主なハイライト／IR説明会ハイライト

08 MANAGEMENT TEAM
経営陣／委員会

09 FINANCIAL HIGHLIGHTS
財務ハイライト

10 CONSOLIDATED FINANCIAL STATEMENTS
財務諸表／株主メモ

11 HOMEPAGE GUIDE／STOCK INFORMATION
ホームページの歩き方／株式の状況

MEDICINOVA
メディシノバ

TOP MESSAGE

代表取締役社長兼CEO（最高経営責任者）
岩城 裕一

**病に苦しむ世界中の患者さんのために、
新薬を創り、届けること。
それがメディシノバの使命です。**

日本のすぐれた創薬技術をいかして、
安全で有効な新薬を世界へ届ける…
患者さんの笑顔をつくることが、私達の仕事です

会社理念

充分な治療法がまだ確立していない疾病を患う
世界中の患者さんに、よりよい治療を提供することにより
社会に貢献すること

基本経営方針

理念を具現すべく、こうした疾病の問題を改善する
医薬品の導入、開発、販売を手がける
グローバルな製薬会社を目指すこと

進行型多発性硬化症およびALS（筋萎縮性側索硬化症）の患者登録が予定過半数を超えました。

株主の皆様におかれましては、ますますご健勝のこととお慶び申し上げます。

平素は格別のお引き立てにあずかり厚くお礼申し上げます。

2014年12月期は、当社にとって非常にアクティブな年でした。同時に、当社の持つ開発プログラムが整理された年でもあります。

現在の主要プログラムに関し、前回の株主通信以降のトピックは、MN-001のNASH（非アルコール性脂肪性肝炎）、IPF（特発性肺線維症）治療適応に関し、それぞれFDAより臨床試験実施申請（IND）に対する承認を受け、フェーズ2臨床治験を開始できる準備が整いました。なお、NASH適応については4月にFDAよりファスト・トラック（優先承認審査制度）指定、IPF適応については昨年10月にFDAよりオーファンドラッグ（希少疾患用医薬品）指定を受け、米国政府からのサポートを受けられる準備も整っております。NASH関連の特許については、昨年8月のNAFLD（非アルコール性脂肪性肝疾患）治療適応の特許承認に続き、12月には非アルコール性に限らないさまざまな原因による脂肪肝およびそれに関連する肝臓のダメージを広くカバーする特許承認を受け、さらに2月にはNASHに特化した特許が承認され、MN-001の脂肪性肝臓疾患治療に関する当社の知的財産の保護が大幅に強化されました。

MN-166のALSを適応とするフェーズ2臨床治験に関しましては、昨年10月に米国疾病対策予防センター（CDC）が本治験をサポートする旨の承認決議を行い、CDCのALSレジストリーに登録され治験参加資格を満たすALS患者に対し、本治験について通知を行っております。このようなサポートもあり、昨年10月の患者登録開始から約4カ月強で、登録予定患者数の半分の患者登録が完了しました。また、進行型多発性硬化症を適応とするフェーズ2b臨床治験に関しましては、4月6日時点で90％強の登録が完了しました。

こうした事業活動が日米の医学の現場から評価され、さまざまな学会でプレゼンテーションを行う機会を得ました。3月には米国肝臓病学会で進行型NASH治療を適応とするフェーズ2臨床治験について発表を行い、4月の米国神経学会年次総会では、ALS、進行型多発性硬化症を適応とする2つの演題で発表を行いました。さらに6月の米国薬物依存症学会年次総会でも、オピオイド依存症治療を適応として進行中のフェーズ2a臨床治験の中間解析結果について発表を行います。

今後も、株主の皆様のご期待に応えられるよう社員一同、臨床開発、導出活動に邁進する所存でございます。株主の皆様には、今後ともなお一層のご理解、ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

平成27年4月

TOPICs

当社株式の基準値段の取扱いが変更されました

2015年4月20日、東京証券取引所におけるメディシノバ株式の基準値段の取扱いが変更されました。これまでは内国株式と同様の取扱いで東証の前日の最終値段等が基準値段でしたが、変更後は「重複上場外国銘柄」と同様の取扱いとなります。

重複上場外国銘柄と同様の取扱いとは

東証の前日立会終了後に設定した基準値段と、本国市場（ナスダック・グローバル市場）における当日立会開始前のメディシノバ株券の直近の値段等を円換算した値段が大幅に乖離し、右の①および②の条件を両方充足した場合、本国市場のほうに基準値段が変更されます。ただし、直近の営業日において本国市場で約定がなかった場合等については、基準値段の変更は実施されません。なお、基準値段の変更日においては、成行呼値が禁止されます。

①a−b>cとなった場合またはb−a>cとなった場合
②a÷b−1で算出された値が+20%超または−20%未満となった場合

a：前日立会終了後に設定した基準値段
b：ナスダック・グローバル市場における当日立会開始前のメディシノバ株券の直近の値段等を円換算した値段
c：aの制限値幅

詳細は東京証券取引所のホームページ「売買制度／基準値段／重複上場銘柄の基準値段の設定方法の取扱いについて」をご参照ください。
http://www.jpx.co.jp/equities/products/foreign/trading/tvdivq0000003ewa-att/tvdivq000000tmn6.pdf

SPECIAL EDITION

特集「着実に前進するメディシノバ」

メディシノバは今期、主要パイプラインMN-166とMN-001に経営資源を集中する方針を打ち出しました。多くの適応症の治療薬として開発を進めており、さまざまなアプローチを試みながら、着々と前進を続けています。政府からの開発助成金の獲得をはじめ、創薬の生命線とも言える特許取得、臨床開発成果をアピールする学会発表と、米国を中心に活発に展開しているところです。
今号では、私たちのこうした活動に焦点を当て、特集いたしました。

■メディシノバの主要パイプライン

コアプログラム/インディケーション	パートナー/助成金	前臨床	フェーズ1	フェーズ2	フェーズ3
MN-166　経口　抗炎症 / 神経保護作用					
神経変性疾患					
進行性多発性硬化症	NeuroNEXT/クリーブランド・クリニック、国立神経疾患脳卒中研究所（NINDS）				
ALS（筋萎縮性側索硬化症）	カロライナ・ヘルスケアシステム神経科学研究所 神経筋/ALS・MDAセンター				
薬物・嗜好品　依存症					
メタンフェタミン（覚醒剤）依存症	UCLA、国立薬物濫用研究所（NIDA）	ファスト・トラック指定			
オピオイド（ヘロイン、処方鎮痛剤）依存症	コロンビア大学、国立薬物濫用研究所（NIDA）				
アルコール依存症	UCLA、アルコール濫用/アルコール依存症研究所（NIAAA）				
MN-001　経口　抗炎症 / 抗線維化					
NASH（非アルコール性脂肪性肝炎）	ファスト・トラック指定	準備中（治験実施承認取得済）			
IPF（特発性肺線維症）	オーファンドラッグ指定	準備中（治験実施承認取得済）			

特集「着実に前進するメディシノバ」

助成金 p03
米国国立衛生研究所（NIH）と傘下の研究所から、MN-166に関して助成金を得るなど、米国の優れた医療サポートを享受しています。

特許取得 p04
MN-001について、肝臓疾患治療、NAFLD、NASHを適応とする特許（米国）を受け、知的財産の保護が大幅に強化されました。

学会発表 p05
国際呼吸器線維症学会や米国神経学会、日本肝臓学会など国内外の権威ある学会で多くの発表を行い、開発成果をアピールしています。

助成金 MN-166

医療の最先端を行く米国で政府機関からのサポートを得ています

■米国NIHのバックアップ

メディシノバは、米国で最も古く権威のある医学研究の拠点機関、米国国立衛生研究所（NIH：National Institutes of Health）との関係性を深めています。

NIHは医療や生命科学分野の研究費を統括する米国の政府機関で、メリーランド州に27の研究所やセンターを有しています。グローバルに研究者を助成しており、年間の予算額はおよそ300億ドル（約3兆6千億円）に達します。

メディシノバは2014年9月、NIH傘下の国立薬物濫用研究所（NIDA）よりMN-166のオピオイド依存症治療を適応とする臨床治験への助成金の追加供与を受けました。また、同傘下の国立アルコール濫用・依存症研究所（NIAAA）、国立神経疾患脳卒中研究所（NINDS）に設立された臨床試験ネットワーク・NeuroNEXTからも助成金を得ています。

NIHの研究費給付の決定基準

1. 高レベルの科学研究に関わるもの
2. 新しい知識の創出につながる大きな可能性があり、疾患の予防・治療の進歩につながると思われるもの
3. 複数の科学領域（生物学、遺伝学、物理学、工学、コンピューター科学）で主要な発見をもたらすと思われるもの
4. 国民の健康に重要で、一定の頻度と死亡率を有する特定の疾患に対応するもの
5. 研究の進展に寄与する科学的な下部構造を形成・維持するもの

NIHの医療施設

■米国と日本の差

メディシノバが米国を拠点に臨床開発を進めるのは、こうした医療先進国の優れた土壌・環境を活かし、ビジネス上でも有利に展開できるからでもあります。

日本は、遺伝子や細胞の仕組みを調べる基礎研究は進んでいましたが、臨床医学・臨床試験は米欧に比べ遅れていました。その原因は、規制の多さ、研究開発資金不足、そしてNIHのような機関がない臨床研究インフラの立ち後れなどが挙げられます。

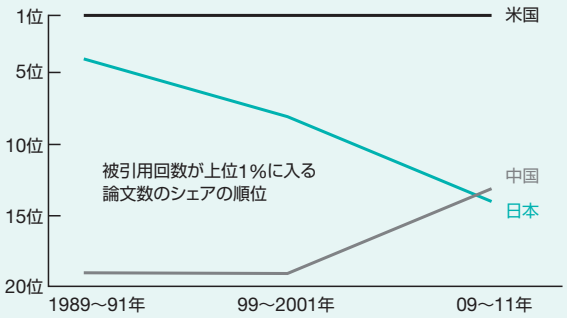
しかし、日本でも2015年4月、日本版NIHともいえる日本医療研究開発機構（AMED）が発足しました。政府の成長戦略の一環で、基礎から実用までの研究を効率よく進める体制を整え、医療水準を高めようとするものです。2015年度予算は1,248億円、自前の研究施設は持たないなど、規模的には本家NIHとは比べものになりませんが、今後に期待したいところです。

日本の医療・医学事情

■日本の臨床医学・臨床試験が米欧に比べ遅れた原因

低評価	臨床・実地医学に対する評価が基礎医学に比べて低かった
育たない	臨床試験専門の医師・看護師等のスタッフ育成が行われてこなかった
芽が出ない	臨床試験が行われても医学的な質が維持されないことが多く、重要な成果があがりにくい

医療研究の実力は研究者に引用される論文の数が一つの指標になるが、臨床医学の論文数で日本は低下傾向。



参考資料

日本の臨床研究・開発における課題（熊本大学・満屋裕明教授）、日本経済新聞2015年2月27日付朝刊

特許取得　MN-001

幅広い治療領域、期間をカバーする特許で、知的財産の保護が強化されました

2014年から2015年2月にかけて、メディシノバはMN-001およびMN-001の主要な代謝体であるMN-002に関して、3つの新しい特許を取得しました。いずれも注力する肝疾患に関わるもので、特許期間は、少なくとも2032年12月までをカバーします。

こうした積極的な特許取得活動によって、より幅広い治療領域と期間をカバーし、知的財産の保護を強化することで、今後の多様な臨床開発の可能性を確保しています。

1. NAFLD（非アルコール性脂肪性肝疾患）治療を適応とする特許（米国）取得（2014年8月）

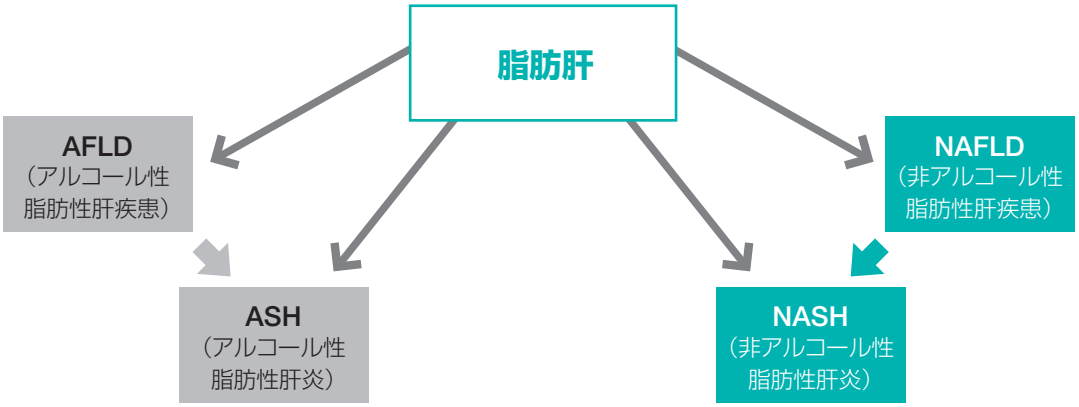
MN-001またはMN-002を用いたNAFLDの治療法およびNAFLDにおける肝臓の炎症を軽減する方法を対象としており、剤型は錠剤、カプセル、液体の経口投与をカバーしています。

2. 肝臓疾患治療を適応とする特許（米国）取得（2014年12月）

脂肪肝（肝臓に脂肪が蓄積している状態）、小葉炎症、肝細胞の風船様腫大、肝臓の瘢痕化などの阻害および肝臓のヒドロキシプロリンのレベルの低下あるいは阻害などを対象としており、剤型は錠剤、カプセル、液体の経口投与をカバーしています。

3. NASHを適応とする特許（米国）取得（2015年2月）

前述の特許取得に加え、NASHに特化した特許が米国特許商標庁から承認されたことで、MN-001およびMN-002の脂肪性肝臓疾患の治療に関するメディシノバの知的財産の保護がさらに強化されました。



学会発表 **MN-001／MN-166**

進捗状況と開発成果を随時国内外で発表し、価値向上を図っています

メディシノバは、臨床治験の治療効果・解析などの結果を、関連する国内外の学会で随時発表しています。開発の進捗と成果を常に発信し続けることで、開発品の認知度・価値を高め、私たちの事業活動への理解促進、企業価値向上につなげていきたいと考えています。

■2014年以降の主な学会発表

月日	学会名	テーマ
2014年 9月23日	第18回国際呼吸器線維症学会（カナダ）	MN-001の肺線維症動物モデルにおける試験結果
10月22日	第13回NEALS年度学会（米国）	MN-166のALSを適応とする臨床治験の詳細
10月23日	第18回日本肝臓学会	マウスNASHモデルにおけるMN-001の治療効果
10月24日	第56回日本消化器病学会	マウスNASHモデルにおけるMN-001の治療効果と炎症および細胞増殖性関連物質の遺伝子発現の解析
11月10日	第65回米国肝臓病学会 （レイトブレイキングセッション）	マウスの進行型NASH（線維化を伴った非アルコール性脂肪性肝炎）モデルにおけるMN-001の治療効果
2015年 3月20日	米国肝臓病学会・製薬産業各社の協賛協議学会	MN-001の進行型NASHを適応とするフェーズ2臨床治験
4月21日	第67回米国神経学会年次総会	MN-166のALSを適応とするフェーズ2臨床治験
4月23日	第67回米国神経学会年次総会	MN-166の進行型多発性硬化症を適応とするフェーズ2b臨床治験
6月15日 予定	第77回米国薬物依存症学会年次総会	MN-166のオピオイド依存症治療を適応とするフェーズ2a臨床治験の中間解析結果

MN-001／MN-166について
有効な治療法のない疾病に対する新しいメカニズムの治療薬を開発中です

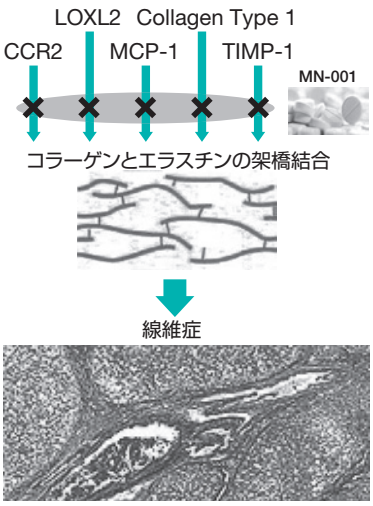
MN-001

■ 炎症の軽減、線維化の抑制に効果

MN-001（タイペルカスト）は、経口錠剤の新規化合物で、多彩なメカニズムによる抗炎症、抗線維化作用を持つと考えられています。気管支喘息や間質性膀胱炎のようなマスト細胞脱顆粒が引き起こす炎症性疾患治療において重要な抗炎症作用が認められており、過去に行ったメディシノバの喘息治療薬適応のフェーズ2臨床治験でも良好な結果を得ています。

近年は、5-リポシゲナーゼ（5-LO）経路を介したロイコトリエン生合成阻害による炎症の軽減や、肝臓や肺の線維化抑制の効果が示唆され、メディシノバでもNASH、進行型NASH、IPF（特発性肺線維症）の動物モデルスタディで、顕著な抗線維化作用を確認しています。

<線維症とMN-001>
線維症は、器官内の線維性結合組織が過剰発達し、炎症と治癒（傷など）の連鎖の結果として起こります。繊維化を促進する遺伝子（LOXL2、Collagen Type1、CCR2、MCP-1、TIMP-1等）の働きで、コラーゲンとエラスチンの架橋結合が起こり、発症する仕組みです。MN-001は、それら遺伝子の発現を抑制する働きがあることが示唆されています。



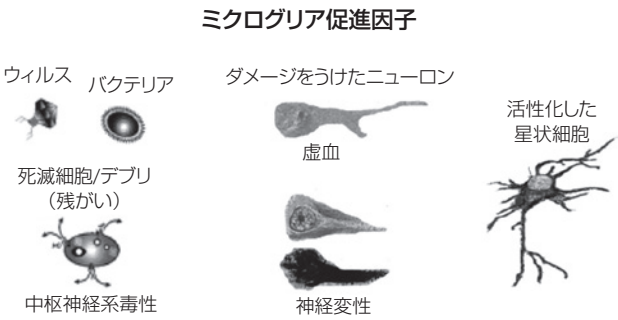
MN-166

■ 中枢神経系疾患の治療に効果

MN-166（イブジラスト）は、日本と韓国で、喘息および脳梗塞発作後の症状の治療薬としてすでに25年以上使用されています。メディシノバは2004年に、MN-166を、再発寛解型多発性硬化症を適応とする治療薬候補として、キョーリン製薬からライセンス導入しました。その後、進行型多発性硬化症および神経症状についての独自の知的所有権を取得し、ファースト・イン・クラスの経口摂取可能な小分子化合物として米国を中心に臨床開発を進めています。これまでの前臨床および臨床治験において抗神経炎症作用および神経保護作用を有することが確認されており、これらの作用がMN-166の神経変性疾患（進行型多発性硬化症、ALSなど）、各種依存症、慢性神経因性疼痛などに対する治療効果の根拠と考えられています。

MN-166は、ホスホジエステラーゼ-4および-10の阻害剤、マクロファージ遊走阻止因子阻害剤で、炎症促進作用のあるサイトカイン、IL-1β、TNF-a、IL-6などを阻害する働きを有し、また、反炎症性のサイトカインIL-10、神経栄養因子およびグリア細胞株由来神経栄養因子を活性化する働きも認められています。グリア細胞の活性化を減衰し、ある種の神経症状を緩和する働きがあることが示唆されています。

<グリア細胞とMN-166>
グリアは脊髄や脳にある細胞で、痛み信号を出すニューロン（神経細胞）の活動を監視し、正常に効率よく機能するように調節する役割があります。しかし、外傷によって神経が損傷しニューロンが激しく発火すると、グリアが盛んに反応し、ニューロンのさらなる興奮を招いて神経の異常な過敏状態を長引かせることがわかってきました。MN-166は、MIF（マクロファージ遊走阻止因子）阻害、PDE阻害などの働きで、こうしたグリア細胞の活性化を抑える効果があることが示唆されています。



HIGHLIGHTS
ハイライト

主なハイライト		IR説明会ハイライト
	2014年	
• ジェンザイム社から遺伝子治療プログラムに関するマイルストーン600万米ドルの受領 • MN-001のNASH（非アルコール性脂肪性肝炎）を適応とする試験結果を発表	1月	• モーニングスター主催個人投資家向けIR説明会（札幌）
	2月	• SMBC日興証券大分支店個人投資家向け説明会（大分） • SMBC日興証券熊本支店個人投資家向け説明会（熊本） • SMBC日興証券奈良支店個人投資家向け説明会（奈良） • モーニングスター主催個人投資家向けIR説明会（金沢） • モーニングスター主催個人投資家向けIR説明会（東京）
• MN-166のマリファナ依存症治療を適応とする臨床治験に対する米国国立薬物濫用研究所の資金供与決定およびフェーズ2a臨床治験開始 • 今後の開発方針を発表	3月	• 通期決算説明会（東京）
• 石坂芳男氏の取締役就任 • エスター・ヴァン・デン・ブーム氏のCFO就任	4月	• SMBC日興証券佐賀支店個人投資家向け説明会（佐賀）
	5月	• 「賃貸住宅フェア」内株式投資フェア（仙台） • 「賃貸住宅フェア」内株式投資フェア（福岡）
• MN-001のPF（肺線維症）を適応とする試験結果を発表	6月	
	7月	• 日本経済新聞社主催個人投資家向け会社説明会（大阪）
• MN-001の進行型NASH（線維化を伴った非アルコール性脂肪性肝炎）を適応とする試験結果を発表 • MN-001のNAFLD（非アルコール性脂肪性肝疾患）治療を適応とする特許（米国）承認を発表 • MN-166のALS（筋萎縮性側索硬化症）を適応とするフェーズ2a臨床治験開始を発表 • MN-166のオピオイド依存症治療を適応とするフェーズ2a臨床治験の中間解析結果を発表	8月	• 中間決算説明会（東京）
• MN-166のオピオイド依存症治療を適応とする臨床治験に対する米国国立衛生研究所（NIH）の助成金追加供与決定 • MN-166の進行型多発性硬化症を適応とするフェーズ2b共同臨床治験の患者登録状況を発表	9月	• SMBC日興証券岡山支店個人投資家向け説明会（岡山） • 日本貿易振興機構主催 バイオグローバルビジネスセミナー
• MN-001のNASHを適応とするIND申請（臨床試験実施申請）およびフェーズ2臨床治験計画に対するFDAからのフィードバック受領を発表 • MN-001のIPF（特発性肺線維症）治療適応に対するFDAのオーファンドラッグ指定を発表 • MN-166のALSを適応とするフェーズ2臨床治験に対する米国疾病対策予防センター（CDC）のサポート決定を発表	10月	• 「賃貸住宅フェア」内株式投資フェア（大阪） • 株主手帳主催「有望企業研究会」（東京）
	11月	• 大和証券名古屋駅前支店個人投資家向け説明会（名古屋） • 「賃貸住宅フェア」内株式投資フェア（名古屋）
• MN-001の肝臓疾患治療を適応とする特許（米国）承認を発表	12月	• 日本経済新聞社主催個人投資家向け会社説明会（東京）
	2015年	
• MN-001のNASHを適応とするIND申請に対する承認通知受領を発表 • MN-029に対する細胞増殖性疾患治療を適応とする特許（日本）承認を発表	1月	• SMBC日興証券新潟支店個人投資家向け説明会（新潟）
• MN-001のNASHを適応とする特許（米国）承認を発表 • MN-001のIPFを適応とするフェーズ2臨床治験の承認通知受領を発表 • MN-166のALSを適応とするフェーズ2臨床治験の患者登録状況を発表	2月	• モーニングスター主催個人投資家向けIR説明会（福岡） • SMBC日興証券大阪支店個人投資家向け説明会（大阪） • 大和証券金沢支店個人投資家向け説明会（金沢） • モーニングスター主催個人投資家向けIR説明会（金沢） • ラジオNIKKEI主催「IR&負けない株式投資セミナー」（東京） • モーニングスター主催個人投資家向けIR説明会（仙台）
	3月	• 通期決算説明会（東京）
• MN-001の肝線維化認めるNASH適応に対するFDAのファスト・トラック指定承認を発表 • MN-166のALSを適応とするフェーズ2臨床治験の安全性に関する中間解析結果を発表	4月	• SMBC日興証券西宮支店個人投資家向け説明会（西宮）

MANAGEMENT TEAM
経営陣

執行役

岩城 裕一
代表取締役社長兼CEO（最高経営責任者）

ピッツバーグ大学教授、南カリフォルニア大学教授歴任、ジャフコ、日本政策投資銀行顧問

岡島 正恒
東京事務所代表、副社長

大和証券SMBC、住友キャピタル証券、住友銀行

松田 和子
CMO（最高医学責任者）

小児科医師、南カリフォルニア大学keckメディカルスクール助教授

ジェフリー・オブライアン
管理部門担当、副社長

UBS, DLJ/クレディ・スイス・ファースト・ボストン、野村、パンク・ズィーガルの株式アナリスト

エスター・ヴァン・デン・ブーム
CFO（最高財務責任者）

公認会計士
ユニバール・ライフ・リソース社マネージャー、アーンスト&ヤングLLPシニア・マネージャー

取締役

ジェフ・ヒマワン
取締役会長
エセックス・ウッドランズ・ヘルス・ベンチャーズ社
マネージング・ディレクター

繁田 寛昭
取締役
ザ・メディシンズ・カンパニー
取締役

中田 貢介
取締役
キッセイ薬品工業事業開発部

小林 温
取締役
セガサミーホールディングス顧問、参議院議員（経済産業大臣政務官、参議院自由民主党政策審議会副会長）

石坂 芳男
取締役
トヨタ自動車顧問

岩城 裕一
取締役
上記参照

委員会

監査委員会（構成員数：4名）
構成員
石坂 芳男（委員長）
ジェフ・ヒマワン
繁田 寛昭
小林 温

報酬委員会（構成員数：4名）
構成員
繁田 寛昭（委員長）
ジェフ・ヒマワン
小林 温
石坂 芳男

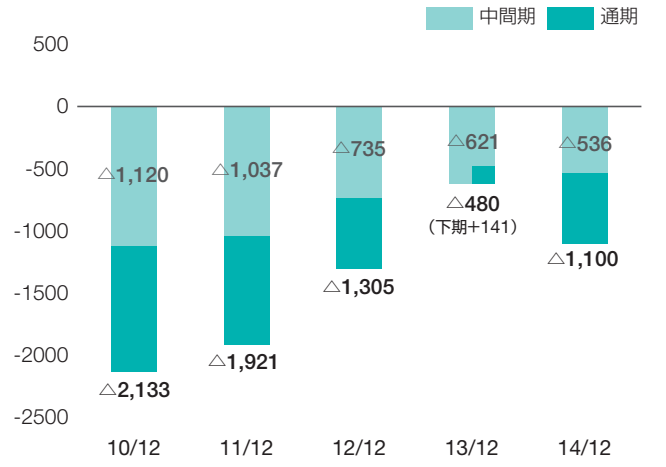
指名・企業統括委員会（構成員数：3名）
構成員
小林 温（委員長）
繁田 寛昭
石坂 芳男

FINANCIAL HIGHLIGHTS
財務ハイライト

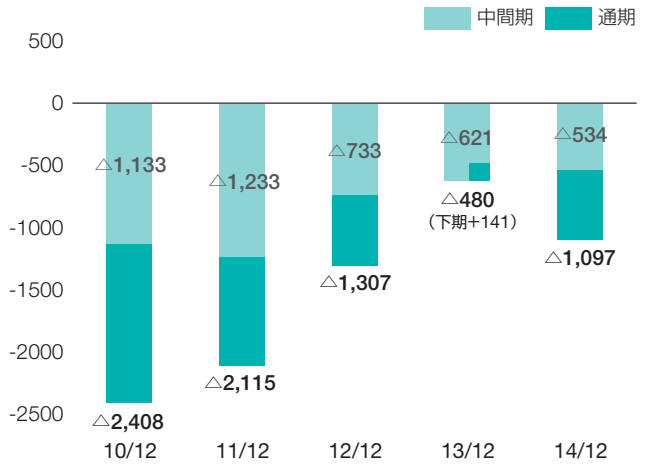
営業キャッシュフローが黒字計上
営業損失、純損失ともに2014年3月28日発表の通期業績予想とほぼ同水準で着地

当期の決算は、前期にジェンザイム社からのマイルストーン収入を計上したため、売上高（営業収益）は前期比で約7.2億円の減少となりましたが、実際の振込が2014年1月に発生したため、創業来初めて営業キャッシュフローが黒字となりました。営業利益および純利益はそれぞれ約6.2億円の減少となりました。いずれも2014年3月28日発表の通期業績予想とほぼ同水準で着地しました。

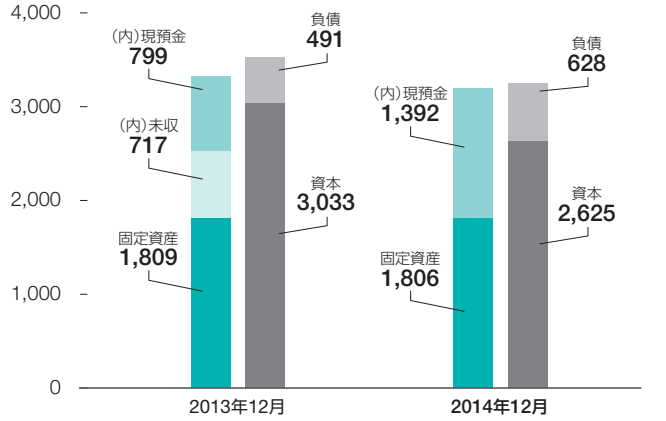
営業利益



当期純利益



資産の内訳



	2013年12月	2014年12月	増減
現金及び現金同等物（百万円）	799	**1,392**	+593
資本合計（百万円）	3,033	**2,625**	△408
1株当たり純資産（円）	135	**107**	△28
1株当たり現金及び現金同等物（円）	36	**57**	+21
	2013年12月30日時点	**2014年12月30日時点**	
JASDAQ市場時価総額（百万円）	4,994	**8,944**	+3,950

注）メディシノバは米国企業で実際の決算は米ドルベースで行われておりますが、便宜上、三菱東京UFJ銀行の2015年2月27日現在の対顧客電信直物相場から算出した仲値1ドル=119.27円にて円換算し、単位未満四捨五入で計算しております。

CONSOLIDATED FINANCIAL STATEMENTS
財務諸表

貸借対照表

（百万円）

科目	前期末（2013年12月）	当期末（2014年12月）	増減額
資産の部			
流動資産	1,715	**1,447**	△268
固定資産	1,809	**1,806**	△3
資産合計	3,524	**3,253**	△271
負債の部			
流動負債	55	**190**	△135
固定負債	437	**438**	△1
負債合計	491	**628**	△137
純資産の部			
株主資本	3,042	**2,637**	△405
資本金	3	**3**	—
資本剰余金	38,986	**39,677**	+691
累積欠損	△35,946	**△37,044**	△1,097
自己株式	—	**—**	—
その他の包括損失累計額合計	△10	**△12**	△2
純資産合計	3,033	**2,625**	△408
負債及び純資産合計	3,524	**3,253**	△271

CHECK POINT
新株発行により約5.0億円の資金調達を実施し、営業活動で約1.0億円の現金収入を得たことにより、現金及び現金同等物が約5.9億円増加しました。なお、2015年3月31日現在の現金は約11.3億円で、2016年3月31日までの運転資金を十分にカバーしています。

CHECK POINT
現金及び現金同等物が増加する一方、ジェンザイム社からのマイルストーンが全額回収されたことにより未収債権が約7.1億円減少、前払費用等が約1.4億円減少したことを主な要因として、資産合計は約2.7億円減少しました。

CHECK POINT
累積欠損が約11.0億円増加する一方、新株購入契約の実施やワラントの行使などにより、2014年中に1.9百万株の普通株を発行し、払込剰余金が約6.9億円増加しました。

損益計算書

（百万円）

科目	前期（2013年）	当期（2014年）	増減額
売上高（営業収益）	716	**—**	△716
営業費用	1,196	**1,100**	△96
営業利益	△480	**△1,100**	△620
営業外収益	2	**4**	+2
税金等調整前当期純利益	△480	**△1,097**	△617
普通株主に帰属する当期純利益	△480	**△1,097**	△617
当期純利益	△482	**△1,099**	△617

CHECK POINT
減少の要因は、前期はジェンザイム社からのマイルストーン収入約7.2億円を売上計上しましたが、今期はマールストーン等が発生しなかったためです。

CHECK POINT
研究開発費は約0.1億円の減少でほぼ前年通りの実績となりました。一般管理費は、財務会計関連コンサルティング料の減少、人員削減に伴う人件費の減少を主な要因として約0.8億円減少しました。

キャッシュ・フロー計算書

（百万円）

科目	前期（2013年）	当期（2014年）
営業活動によるキャッシュ・フロー	△1,270	**97**
投資活動によるキャッシュ・フロー	△4	**0**
財務活動によるキャッシュ・フロー	1,595	**496**
現金及び現金同等物の増減	321	**593**
現金及び現金同等物の期首残高	478	**799**
現金及び現金同等物の期末残高	799	**1,392**

CHECK POINT
ジェンザイム社からのマイルストーンの振込が2014年1月に発生したことにより、差し引き約1.0億円のキャッシュ・インとなり、営業活動によるキャッシュ・フローが黒字化しました。

注）米国会計基準に準拠した財務諸表の科目を一部変更しております。また便宜上、
三菱東京UFJ銀行の2015年2月27日現在の対顧客電信直物相場から算出した仲値1ドル=119.27円にて円換算し、単位未満四捨五入で計算しております。

株主メモ

- **証券コード**：JASDAQスタンダード 4875
- **決算期**：12月31日
- **売買単位**：100株（JASDAQスタンダード）
- **株式事務取扱機関**：
  東京都千代田区丸の内1丁目4番1号　三井住友信託銀行株式会社
- **事務取扱場所**：
  東京都杉並区和泉2丁目8番4号　三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
- **株主名簿管理人**：
  American Stock Transfer & Trust Company
  （アメリカン・ストック・トランスファー・アンド・トラスト・カンパニー）
  6201 15th Ave. Brooklyn, NY 11219, USA

HOMEPAGE GUIDE
ホームページの歩き方

動画コンテンツが充実!　映像を利用したIRを推進しています。

有力社長インタビューサイトの取材の模様を掲載しています。

金融情報サービス会社提供の動画番組で「2015年新薬開発の現状と事業戦略」をテーマに語っています。

毎年、期末と中間に行う決算説明会の動画をタイムリーに掲載しています。

▶▶▶www.medicinova.jp

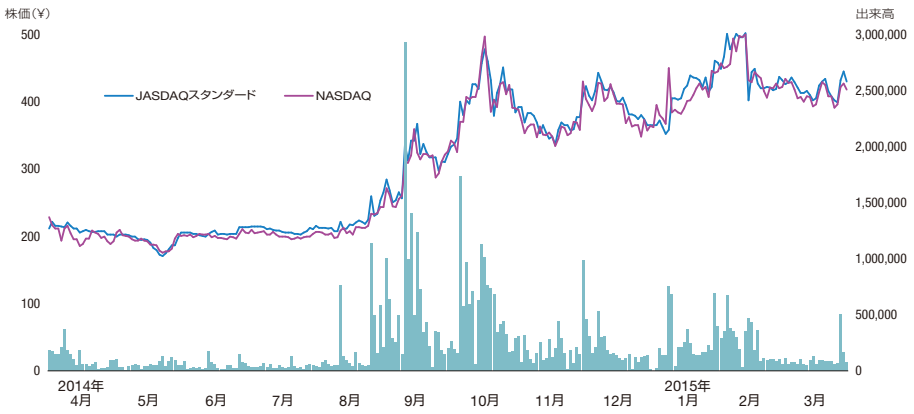
STOCK INFORMATION
株式の状況

発行可能株式総数	103,000,000株 (2015年3月31日現在)
発行済普通株式の総数	24,616,317株 (2015年3月31日現在)
純資産	32億52百万円 (2014年12月31日現在)
株主数	8,398名 (2014年12月31日現在)

JASDAQ証券コード　4875
NASDAQティッカー　MNOV

[大株主] (2014年12月31日現在)

株 主 名	所有株式数(株)	発行済株式数に対する所有株式数の割合(%)
里見 治	1,467,000	6.0
エセックス・ウッドランド・ヘルス・ベンチャーズ・ファンド VI・エルピー	1,170,370	4.8
キッセイ薬品工業株式会社	800,000	3.3
イワキ・ファミリー	733,778	3.0
ナショナル・フィナンシャル・サービス	572,046	2.3



MEDICINOVA

メディシノバ 東京事務所
〒105-0003　東京都港区西新橋1-11-5　新橋中央ビル5F
TEL:03-3519-5010　FAX:03-3593-2721
www.medicinova.jp